

第16回ハワイ沖縄タスクフォース会議 会議録(概要版)

1. 名称：第16回ハワイ沖縄タスクフォースミーティング(16th Hawaii Okinawa Taskforce Meeting)

2. 日付：令和7年8月29日(金)※ハワイ現地時間

3. 時間：09:00～17:00

4. 場所：ハワイ州立美術館(米国ハワイ州ホノルル市)

5. 出席者：

【沖縄(日本)側】

沖縄県 商工労働部 部長

経済産業省 通商政策局 米州課

沖縄電力株式会社

沖縄科学技術大学院大学(OIST)

株式会社ゼネシス

他 関係者

【ハワイ側】

HSEO(ハワイエネルギー局) 局長

ハワイ大学

ハワイアン電力

イースト・ウェスト・センター

ウルボノイニシアチブ

ハワイ自然エネルギー研究所(HNEI)

他 関係者

6. 内容(以下番号はアジェンダ順)

1-1) 開会のあいさつ ハワイエネルギー局(HSEO) 局長

2-1) 両地域における近況方向 (ハワイ州エネルギー局)

テーマ：ハワイ州におけるエネルギーの現状

概要：最新の“RPS”(Renewable Portfolio Standard:再生可能エネルギー目標比率)の状況、電力用燃料の輸入状況、地熱発電の可能性など、ハワイ州のクリーンエネルギーに関する最新の動向を紹介した。

2-2) 両地域における近況報告 (沖縄県商工労働部)

テーマ：沖縄県におけるエネルギーの現状

概要：沖縄県の再生可能エネルギー導入における課題を共有し、国の政策動向と併せて現在進行中である沖縄県クリーンエネルギーイニシアティブ改定の背景と方向性を説明するとともに、現在のクリーンエネルギー導入に向けた具体的な取組事例を紹介した。

3-1) 両地域における近況報告（ハワイ州エネルギー局）

テーマ：国家のエネルギー戦略とハワイ

概要：米国のエネルギー政策の基本方針である「クリーン（Clean）」「手頃さ（Affordable）」「豊富さ（Abundant）」について説明。また近年の石油・天然ガスの生産拡大に加え、地熱発電や水素燃料、電力網の強靱化など、クリーンエネルギー分野の技術開発方針について共有した。

3-2) 両地域における近況報告（経済産業省）

テーマ：日本のエネルギー政策動向

概要：日本のカーボンニュートラル実現に向けて「排出削減」「エネルギー安全保障」「経済成長の同時達成」の観点から、「GX2040 ビジョン」と「第7次エネルギー基本計画」について、基本方針や投資促進、技術革新の取組などを説明した。

3-3) 両地域における近況報告（ハワイアン電力）

テーマ：ハワイアン電力の再生可能エネルギーと山火事対策の近況報告

概要：ハワイで実施中の太陽光発電・風力発電・蓄電池など多様なプロジェクトを紹介。そのほか2023年に発生したマウイ島の火災を受け、発火管理や燃料管理、都市計画、鎮火方法を柱とした山火事対策の状況を説明。

3-4) 両地域における近況報告（沖縄電力）

テーマ：沖縄電力における再エネ導入拡大に向けた取組について

概要：波照間島での実証事業を例に挙げ、小規模離島における再エネ拡大・系統安定化技術の高度化に関する取組について説明した。

4-1) 特別発表 次世代エネルギー可視化システム“HAVEN”のショーケースと意見交換

テーマ：“HAVEN”(Hawai'i Advanced Visualization Energy Nexus)の開発

概要：HAVENの概要と活用方法について紹介。同システムはハワイ州エネルギー局が開発したデータ可視化ツールで、主にエネルギー戦略の立案やエネルギー教育の教材として活用されている。

5-1) 基調講演1 沖縄科学技術大学院大学（OIST）

テーマ：OISTが取り組む持続可能なエネルギーテストベッドプロジェクトの紹介

概要：OISTで推進している「サステナブル・エネルギー・テストベッド・プロジェクト」について説明し、「沖縄スマートアイランド構想」にも触れながら本プロジェクトで実施中の各種取組について説明した。

5-2) 基調講演2 ハワイ大学経済研究機関(UHERO)

テーマ：SDGsに関するグローバルな視点

概要：世界的なエネルギー転換期における両地域の協力の重要性を説明した。ハワイと沖縄は地域として、産学官が連携して持続可能で強靱な社会づくりを目指し、共に再生可能エネルギーの導入に取り組むことを提案した。

5-3) 基調講演 3 ハワイ大学

テーマ：ハワイ経済予測

概要：連邦政府の政策の変化がハワイ州経済に与える影響を分析。関税の不安定化で投資や観光が停滞し、雇用減少と長期的な景気低迷が懸念されると述べた。また脱炭素政策の後退で環境悪化と電力コスト上昇の恐れがあることを指摘しながら、産学官連携により再エネ推進と地域経済の安定化を図る必要性を提言した。

5-4) 基調講演 4 イースト・ウェスト・センター

テーマ：地域協力の必要性

概要：同センターと沖縄は「小渕沖縄教育研究プログラム」を通じて長年の交流を行っており、これまでに多くの沖縄出身者が参加し地域や国際社会での協力関係を深めてきた。また、エネルギー転換などの課題に対し、同センターを中立的な協議の場として提供し、ハワイ・沖縄の連携を強化していく意欲を示した。

6-1) 再発電とレジリエンス 1 ウルポノイニシアチブ

テーマ：地熱による安定した電力供給

概要：ハワイの地熱発電政策の現状と課題を説明。地熱資源の探査はコストが高く、州の公的資金支援が不可欠と指摘した。また、住民の意識調査で9割が再エネ拡大を支持する一方で地熱への理解は限定的であった結果を示しつつ、地熱発電の理解促進が重要と強調した。

6-2) 再発電とレジリエンス 2 株式会社ゼネシス

テーマ：沖縄の離島における OTEC 導入のポテンシャル

概要：沖縄県（久米島町）で取り組んでいる海洋温度差発電(OTEC)の取組についてを紹介し、パラオ等海外の OTEC の動向について報告を行った。

6-3) 再発電とレジリエンス 3 HNEI(ハワイ自然エネルギー研究所)

テーマ：ハワイのマイクログリッドの役割

概要：ハワイやアジア太平洋地域でのマイクログリッド研究と沖縄との連携事例を紹介。
ハワイ沖縄クリーンエネルギー協力を基盤に、太平洋地域での持続可能なエネルギー展開を推進したいと述べた。

7-1) 沖縄県スピーチ

沖縄県商工労働部 部長

7-2) パネルディスカッション

テーマ：再発電とレジリエンス

ハワイと沖縄におけるエネルギー転換の課題とその解決策に焦点を当て、州政府、学術機関、民間等の各専門家が各々の立場でスピーチを実施した。電力の安定供給、コスト削減、脱炭素化を同時に追求することの難しさを共有し、多様な選択肢（太陽光発電、地熱発電、蓄電技術など）を探索し、それらを導入する際の地域住民への理解促進の重要性が議論された。

7-3) 閉会のあいさつ ハワイ州エネルギー局(HSEO) 局長

【タスクフォース会議の様子】(写真)

